

ビタミンの一種メチルコバラミン

ALS患者延命に効果

徳島大大学院の梶龍児教授（神経内科）らの研究班は、ビタミンB12の一種「メチルコバラミン」が厚生労働省指定の難病・筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の延命に効果があることを実証した。患者への投与実験の結果、条件によっては生存期間または呼吸器装着までの期間が約600日延びた。研究に関わった製薬会社は「従来の薬よりもはるかに効果がある」として、厚労省に新薬の承認を申請。認められれば、患者にとって朗報になりそうだ。

徳大 梶教授らの研究班実証

ALSは、全身の筋肉が急速に衰えて呼吸まひを起こす病気。発症のメカニズムは解明されていないが、原因の一つとして、運動神経細胞間の情報伝達に障害が起ることが挙げられている。ALS治療に有効とみられていた。梶教授ら徳島大の研究班は、製薬会社エーザイが中心とした全国50機関による研究班は2007年7月から14年7月までの



梶龍児教授

カニズムは解明されていないが、毒性を軽減するメチルコバラミンがALS治療に有効とみられていた。梶教授ら徳島大の研究班は、製薬会社エーザイが中心とした全国50機関による研究班は2007年7月から14年7月までの

厚労省に新薬承認申請

間、承諾を得た全国のALS患者約370人を対象に検証。メチルコバラミン投与を週2回、1回につき25錠、50錠、投与なしの3グループに分けて経過観察した。

このうち発症後1年2カ月以内に投与を始めた患者143人の間で、効果に大きな差がみられた。投与されなかった患者に比べて、25錠投与された患者は中央値で約500日、50錠投与された患者は約600日、生存期間または呼吸器装着までの期間が延長された。既存治療薬の約7倍の効果で、副作用もなかった。

一方、発症後1年2カ月を過ぎた患者の間では延命効果はみられなかった。梶教授は「従来の薬と比べて飛躍的に生存期間を延ばしている。難病に苦しむ患者の希望になれば」と話している。

（吉松美和子）